

● ● ● 主な講師の紹介 ● ● ●



講演「自然災害の危機管理 ～最近の災害に学ぶ～」

京都大学防災研究所所長 教授

河田 恵昭（かわた よしあき）

1946 年大阪市生まれ。工学博士。

京都大学工学部土木学科卒業、同大学院工学研究科博士課程土木工学専攻修了。京都大学防災研究所巨大災害研究センター長などを経て現職。阪神・淡路大震災記念 人と防災未来センター長を兼務。巨大災害、都市災害、総合減災システム、河川・海岸災害、自然災害論を専門とし、大都市大震災軽減化特別プロジェクト（文部科学省）研究代表、21 世紀 COE 拠点形成プログラム（災害学理の究明と防災学の構築）拠点リーダーをはじめ、中央防災会議「首都圏直下地震対策専門調査会」委員等、政府関係の主要委員を務める災害研究の第一人者。



講演「災害対策への視点 ～少子高齢社会の災害対策を考える～」

中部大学教授（元 NHK 解説主幹）

ジャーナリスト（都市・地域問題、災害対策、環境問題専門）

齋藤 宏保（さいとう ひろやす）

1947 年埼玉県浦和市（現さいたま市）生まれ。

慶應義塾大学法学部法律学科卒業後、NHK（日本放送協会）入局。東京社会部記者、大阪放送局ニュースデスク、スペシャル番組部チーフプロデューサー、「特報首都圏」キャスター、「NHK 特集」「NHK スペシャル」等の番組制作・コメンテーター、解説主幹などを務める。社会派ジャーナリストとして、新宿駅西口バス放火事件を始め、コンクリート構造物の老朽化、酸性雨禍、地方都市の中心市街地空洞化、国土計画、大深度地下利用、ITS、都市再生等の取材・解説にあたってきた。

● ● ● 第 502 回建設技術講習会 現場研修事業の概要 ● ● ●

1 びわこ地球市民の森 守山市今浜町・水保町・洲本町地内

植栽基盤を含む公園施設は県で整備し、植樹については木陰となる木や施設周辺の植樹などを除き、県民等によるボランティアにより、苗木を中心に植樹していく計画です。

施設整備については国土交通省が地球温暖化対策の観点から都市公園事業で制度化した「平成の森づくり事業」により平成 12 年度から事業を進めている。

平成 13 年度末で「つどいのゾーン」の整備をほぼ終え、平成 14 年度から「ふれあいゾーン」を整備しています。



2 琵琶湖流域下水道湖南中部浄化センター 草津市矢橋町

琵琶湖の水は、琵琶湖周辺のみならず京阪神地域の貴重な水資源として大半をまかなっている。

湖南中部浄化センターでは、琵琶湖の富栄養化の原因物質である窒素とリンをできるだけ除去する「高度処理」を行っている。

また、下水処理によって生じる汚泥は、最終的に溶融スラグ化により減容化、安定化して、建設資材等への有効利用を図っており、処理した水や汚泥ともできるだけ周囲の自然環境に負担にならないよう努めている。



3 第二名神高速道路（エコ＆テクノロード） 甲賀市信楽町地内

第二名神高速道路は、「ゆとりある構造」、「安全性の確保」、「沿道環境の保全」などに重点がおかれ建設中である。

特に、甲南トンネル周辺では、自然景観や生態系の再生をめざし、表情豊かな川づくりや周辺との馴染みを考慮した法面づくり、また、動植物に配慮した計画を実施している。

それらの取り組みを総称し、「エコ＆テクノロード」と呼びます。